



ネイチャーなら

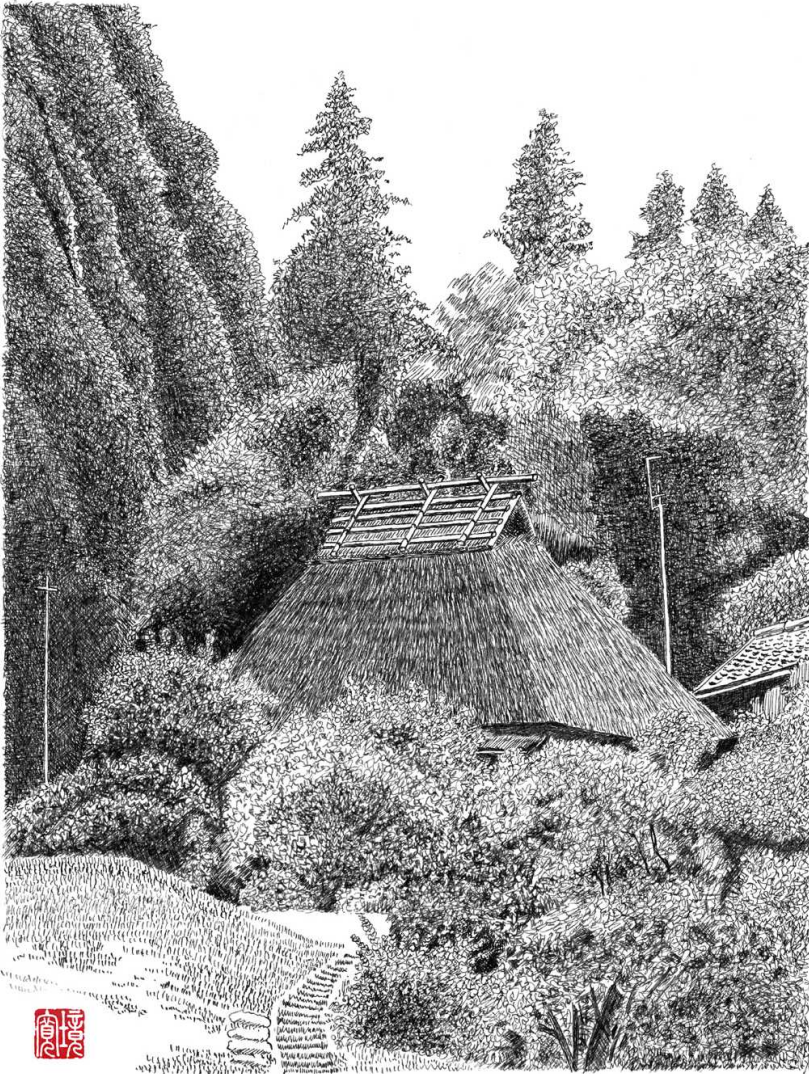
《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2013年8月1日

8月号・第139号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



カミノナガキウイシミの
被害木急増！

西瓜&蕎麦&茄子等の成育順調！

Contents

§ § § § §

多士済々.....	①	自然俳句.....	⑫
Monthly Repo.ならやま.....	②	癒しの散歩道&ならやま茶論.....	⑬
里山の今.....	③④	青垣春秋.....	⑭
6月歴文研修会報告.....	⑤	Galleryならやま.....	⑮
7月歴文研修会報告.....	⑥	蕎麦よもやま咄⑤&健康余話.....	⑯
山もり・てんこ森&奈良学クイズ.....	⑦	石工佐吉&仲間入りしました.....	⑰
春の収穫祭.....	⑧	ならやま景観整備.....	⑱
校庭観察会&矢田丘陵自然観察会報告.....	⑨	行事案内.....	⑲
7月例会報告.....	⑩	自然教室チームだより.....	⑳
やさしい昆虫講座③④.....	⑪	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記.....	㉑

寧楽の彦左衛門さん



樋口善雄さん

顧問 川井 秀夫

この方と初めてお会いしたのは何時だったか、記憶を辿ると平成十二年。私の俳句仲間であった有本倍美氏（当会初代副会長）の紹介で、ひょっこり私の俳句会『蒲公英』に入会された時だったと記憶しております。

シニア自然大学（当時）研修中の七期生で、修了と同時に同十三年、当会の立ち上げにも参画され、今日に到っております。

当会では、発足間もなく運営幹事として、いこま棚田の荒地整備・柳生国有林間伐・平城里山の伝統野菜の耕作など、対外的には自然工作チームの頭領として活躍して頂きました。昨年、糟糠の奥様が急逝され、脚部の不安もあって現場でお目にかかる事が少なくなり淋しさを隠せませんが、当会の最長老として長く寄与され、心から敬意を表したいと思っております。

思い出話は尽きませんが、温厚で剽軽なお人柄ではありますが、物事に対し直言される事も多く、定時総会の席上ではチクリと痛いところを指摘され、しばしば戸惑いを受けた事が思い出されます。真面目な顔でウイットに富んだ話題を提供され、よく女性の方を笑わせておられた様です。

俳句会でもユニークな句が多く、ヒヤリとする迷句も出て楽しませて呉れました。私が付けたニックネームが『寧楽の彦左衛門さん』。小田原城主にまで登り詰めた「天下のご意見番」大久保彦左衛門の晩年の好々爺の姿がオーバーラップ致します。（失礼）

私の俳句ノート（平成十四年四月）の記録に、俳人樋口さんのトップ当選された名句が残っております。桜の季節、山科疎水を吟行した時の作で注目を集めたものです。

打ち揃ひ口も軽ろやか四月馬鹿 善雄

柳生では木を伐る事は避けておられましたが、林床に狸々袴・片栗など草花を咲かせる一念で、シダ・ササなど下草を刈り取っておられました。

私のナス栽培にもお手伝い頂き、助言を得た事も印象に残ります。お陰で今年も作柄は順調で二年続きの豊作が約束されております。

独居の日々が続きますが、勇気と希望をもってお過ごし下さい。手不足な事があれば里山の勇士たちが応援に参ります。私なども、いつ環境の変化が訪れるかも解りません。人生は無常の連鎖であることを銘じ、余生を楽しんで下さい。また里山へどうぞ。



▲ナスクラブ

小学生に田植えの手ほどき ▶



Monthly Repo.ならやま

◆6月27日(木) 曇り 62名+3名

雨で1週間延期されていた春の収穫祭(じゃがいも祭)が開かれ、多くの会員が参加した。美味しいカレーライスを賞味し、会員手作りの漬物類もいろいろ提供され、腹いっぱいとなった。

里山Gでは、第5地区のスギの伐採。「山の日川の日」のイベント参加に向けて工作材料の準備。カシナガのトラップ調査において、成虫飛来が確認され、食入被害木も発見。

農園では、ナス・シシトウ・ジャガイモ・ニンニクの収穫。草の伸びも激しく野菜畑の草取りに追われる。

アジサイが満開。ジャコウアゲハの幼虫が餌のウマノスズクサを根元から切ってしまった。残された幼虫は困ることだろう。

◆7月4日(木) 曇りときどき雨 53名

降ったり止んだりの天気、午後雨が激しくなってきたので早めに作業を終了。

先週カシナガの食入被害が見つかったので、



ならやま里山林のコナラ全木について被害の有無の調査を開始。

ピーマン・

ナスの生育は順調で、しっかりした支柱を与え、より一層の生育促進と収穫を期待。

第5地区ではスギの伐採、笹刈りを実施。佐保自然の森では手足を伸ばす春草と夏草の刈り取り、コスモスの種まき。

◆7月7日(日) 晴れ 4名

イベントの工作材料の準備が遅れているので、有志が水鉄砲、ブンブンゴマなどの竹材を切っ

たり削ったりの作業。

◆7月11日(金) 晴れ 52名+22名

非常に暑い日であったが、佐保台小学校5年生が元気に6月に植えた稲の生育調査。さらにザリガニなどの池の生物も観察。

今年初めて栽培したトマトが立派な果実をつけ初収穫。昼にみんなで試食。ナス・ピーマンなどの手入れ、除草、収穫作業が忙しい。

天気が続いているので彩の森の灌水作業を実施したが、炎天下での作業でみんなバテ気味であった。

カシナガの全木調査が継続され、あらたな被害木も見つかる。15日のイベントの工作材料の準備がやっと完了。

パトロール班がコ克蘭の開花を確認。

◆7月18日(木) 曇り一時雨57名+2名

朝の作業開始時から雨がぽつぽつ降り始めたが、みなさん雨の中元気に活動を始めたので、雨の方が恐れをなして早々と逃げ去った。



里山Gでは、27日のならやまでのイベントが迫っているため、工作材料の準備と、カシナガの被害木調査におおわらわ。

農園Gでは、立派なナス・ピーマンが驚く



ほどに大量に収穫された。大きなスイカが4つも収穫でき、処分はジャンケンポン。

ならやま池の生物調査が1ヶ月ぶりに再会された。

(木村 裕)

里山の今

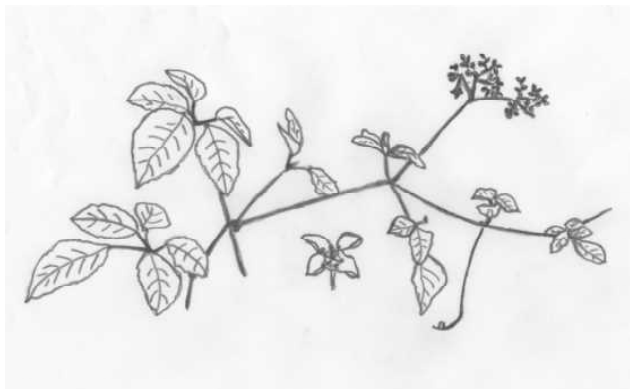
ならやま花だより

吉村さつき

7月11日(木) 暑い日が続き、植物達は雨の降るのを待っているようです。

つるには吸盤・気根・まきひげ・まきつる型がありますが、日本全国どこでも見られるヤブガラシはまきひげでつかまって草木の上にはびこります。葉は5枚の小葉からなる鳥足状複葉で互生します。若い葉や茎は紫色をおびます。まきひげや花序のつく節は葉と対生します。まきひげのらせんの向きは途中で1, 2回逆転するそうです。花序は平たいかさ状で花弁は薄緑色、花盤は橙色です。

名前の由来は生育が旺盛で藪をも枯らす事から名付けられました。別名貧乏葛とも言います。



▲ ヤブガラシ

[草花] ヤブガラシ、ヒメジョオン、ヨウシュヤマゴボウ、ドクダミ、イヌホウズキ、イヌタデ、エノコログサ、キンエノコロ、タチイヌノフグリ、ヘクソカズラ

[木の花] イソノキ、アジサイ、マンリョウ、シャシチャンボ、フジウツギ、シモツケ

[木の実] ソヨゴ、ヒサカキ、ガマズミ

[水辺の花] セリ、ツユクサ、ヌマトラノオ

[花壇] オミナエシ、キキョウ、ナデシコ、サンジウウ、ホタルブクロ、ハンゲショウ、ノコギリソウ、トケイソウ、グラジオラス、コスモス、ヒメヒマワリ、タチアオイ、ギボシ、ヤブカンゾウ、オニユリ、ペロニカ

* ペタキン日記 ⑭ *

羽尻 嵩

途切れていた春からのペタキン関連のお話を載せます。

4月18日 近大班来訪。堀田君と柴田君が新しく本年度の「ならやま」担当となったとの紹介があった。この日は5月並みの気温で、ようやくペタキンの姿を見た。すでに産卵行動が始まっている。予想外だ。

5月8日 この日、カワセミがタナゴ池に侵入しているのを何人かの方が見られた。網がしてあるのにどこから侵入したのか。ジェ ジェ!

5月13日 ならやま池のアオミドロの繁茂が激しく、悪臭もあり、ザリガニが酸欠で死んでいた。何とかしなければ。

5月23日 堀田君が木津川水域で捕獲してきたシマヒレヨシノボリ24匹をタナゴ池に放流する。タガイの増殖に向け期待と不安のアンビヴァレンス。

5月30日 これまでここで見たこともない稚魚がいた。おそらく、昨年、木津川で捕獲してきたモツゴの稚魚と思われる。ほんとなか。

6月13日 近大班によるタナゴの産卵状況調査があり、タガイに産み付けられたタナゴの卵約230個が確認された。タガイの殻の中は卵だらけか?

6月27日 東池でカメがいるのを発見。水深が深く捕獲に失敗。やがて見なくなった。どうなっているんだ。

7月11日 佐保台小学校の生徒達が植えた稲の生育状況を確認に来た。池のペタキンやザリガニなどを紹介する。婚姻色でバラ色に染めたオスのペタキンはいつ見ても見とれてしまうほどきれいだ。



アサマイチモンジ

菊川 年明

ならやまにはアサマイチモンジという中型のチョウがいる。晩春から秋まで見られる。

このチョウには大変よく似たイチモンジチョウという近縁種がいる。イチモンジチョウという名前の由来は斑紋が一文字のように見えるところからと言われており、アサマイチモンジはイチモンジチョウに近縁であるところからの名付けであろう。

どちらのチョウも幼虫の食草はスイカズラなどで、姿もよく似ている。棲息域はイチモンジチョウは北海道から本州、四国、九州まで覆っているのに対してアサマイチモンジは本州だけの特産種である。

この両種は木津川市の丘陵地帯ではともに棲息しているが、地理的にさほど隔たっていないならやまではアサマイチモンジだけのようである。10年来の観察では、ならやまでイチモンジチョウを見たことがない。環境もさほど変わらないように思えるのに不思議である。一般的にはイチモンジチョウに比しアサマイチモンジは数が少なく、棲息域も局地的と言われている。

ちなみに、写真はこの両種で、上はならやまにいるアサマイチモンジ、下はならやまにはいないイチモンジチョウである。相違点はほんの僅かである。



（ならやま生息）
アサマイチモンジ



（ならやま不在）
イチモンジチョウ

ならやま自然の森 観察路

坂東 久平

会の正式名称が「パトロール班」となり、景観グループの中で活動する事になりました。

5月号からコースの紹介をしており、5月：3コース、6月：1コース、7月：ならやま委員会視察でした。

今月は2コース（谷道コース）をご紹介します。ならやまの主なポイントを歩く起伏の激しい山道で、ハードなハイキングが楽しめます。

ベースキャンプを出発してポイント①（自転車道に面しているため道標無し）から山に入る。②、③を通過していきなり急な登り、④小羊歯の辻で一息つく、尾根筋を進み⑤オオタカの辻、⑥（桜の広場）を通過して⑦104ピークに到着、この辺りは山道としては結構楽しい。

下りながら、⑧、⑨を経て⑩に着く、ここから右折して山の中を登り⑪へ、右折して、間もなく急な下りを経て谷道に入る⑬谷の出会い、⑭までの谷道はクマザサが生い茂り手入れが急がれる。

⑯赤岳口から⑰、⑱赤岳までは急な登り、山頂付近はやせ尾根となっており注意が必要です。ここから⑳鳥観の丘まではアップダウンのある面白い山道、鳥観の丘で景色を楽しんだ後ベースキャンプに向けての復路となる。

㉑竹藪の辻、㉒遊びの森出合いから「ツツジの道」を歩いて㉓で山から出る。ベースキャンプが見えた、お疲れさまでした。



ポイント⑯遊びの森出合い

「謎多き継体天皇と今城塚古墳を訪ねる」

歴史文化クラブ6月研修会

6月25日(火)晴、茨木市と高槻市にまたがる古代三島の地に継体天皇とその陵墓「大田茶白山古墳」と「今城塚古墳」を訪ねました。

高の原駅に26名が集合。マイクロバスで出発。車中で、岩本先生のオリエンテーション「継体天皇とその時代」の講義が約一時間あり、ちょうど終わるころに「大田茶白山古墳」に到着しました。

ここは宮内庁が「第26代継体天皇三島藍野陵」に指定しています。周濠を含め全長320mの堂々とした佇まいは、天皇陵の風格を感じさせます。



《継体天皇陵 太田茶白山古墳》

続いて、番山古墳(帆立貝式古墳：三島地域の首長の墓)を見学。この地点から、阿武山古墳(藤原鎌足墓)・大田茶白山古墳・埴輪工房・淀川流域を遠望し、三島野の古代の景観を確認しました。

「新池ハニワ工場公園」は5世紀から1世紀以上の間、埴輪を作成し続けた我が国最大級の埴輪製作工場跡で、高槻市が登り窯・建物・埴輪を復元展示し歴史公園として整備したもので、古代の息吹が伝わって見応えがあります。特に、狩猟の形象埴輪(猪・猟犬・狩人)は印象的でした。

午前11時、目的地の今城塚古墳公園と高槻市立古代歴史館に到着。待受けていただいた「高槻市文化財スタッフの会」の佐伯さんの絶妙の説明に導かれて約3時間、参加者はそれぞれに「謎多き継体天皇の世界」の探訪に取り組みました。

まず「卑弥呼の時代3世紀の安満宮山古墳と清龍3年の銘の鏡」、「阿武山古墳：藤原鎌足の墓」の説明。次いで、メインテーマである継体天皇と今城塚古墳について、詳しく解説頂きました。

今城塚は、名前のお通り戦国時代には砦となり、さらに文禄5年の伏見地震で墳丘と石室が破壊されており、高槻藩は幕府に当藩には天皇陵は無いと報告したため、大田茶白山古墳が継体天皇陵に治定されたこと。お蔭で今城塚は墳丘部にも自由に立ち入れたし、学術的な発掘もされて数々の貴重な成果がえられたとのこと。整備されるまでは、近隣の人々の耕作地と遊び場とし利用され、出土した埴輪のカケラは採り放題だった・・・、等々現地ならではの説明でした。

昼食のあと、古墳外周の埴輪(約1000本)や当時を再現した祭祀埴輪(約2百体の象形埴輪)を、実際に手に触れて体感。その後、地震跡の残る後円部から前方部、造出部まで踏査しました。

帰路のバスの中では、「埴輪」について坂東さんより解説があり、一寸した埴輪通になられた方もあったはず。15時40分、近鉄高の原にて解散。

さらに有志は、某所で岩本先生を囲んで、歴史談義の花が咲かせたとのことです。



《今城塚古墳埴輪祭祀場の復元》

最後に「継体天皇と今城塚の謎」テーマとした論文・解説書・小説が多数ありますので、今回の研修会が、古代の三島や継体天皇について勉強していただく切っ掛けになるなら望外の幸せです。

(西 慎二郎)

『佐紀盾列古墳群と松林苑。超昇寺跡をめぐる』

歴史文化クラブ7月研修会

7月16日(火)10時に近鉄平城駅に集合、お天気は曇っているが蒸し暑い、暑さの中で23名の会員の出席を得た。川井代表より挨拶の後、歩いて5分の神功皇后陵へ行く。全長275mの大型前方後円墳である。神功皇后は第14代仲哀天皇の妃で三韓征伐に遠征したと言われてきたが、近年では実在が疑問視されている。



次に10分ほど歩くと第13代成務天皇陵に到着する。ここは日葉酢媛命陵(11代垂仁天皇の皇后)、第48代称徳天皇陵(聖武天皇の娘)と接しており称徳陵以外は古墳時代前期後半(4世紀後半)の前方後円墳である。いずれも神話時代の人物だが、不思議と女性が多いのは何故だろうか?やはり実家の勢力圏に巨大な墓を作ったのだろうか。岩本先生から古墳や被葬者の話を聞きながら古代の世界を想像するのは楽しい。坂東さんから古墳の変遷の説明を聞く。弥生時代後期になると方墳や四隅突出墳が出現し、古墳時代前期の前方後円墳につながっていく。6世紀になると五条野丸山古墳を最後に前方後円墳は見られなくなり、天皇陵は八角墳に変わっていく。8世紀の奈良時代になると天皇陵も円丘になってしまうのである。塩塚古墳では古墳を削って平城宮北に設けられた松林苑の一部にした痕が残っている。

岩本先生の説明によると超昇寺は平城天皇の皇子高丘親王ゆかりの寺であったが戦国末期に戦火により焼失した。江戸時代元禄年間に同地出身の護持院隆光大僧正により復興されたが明治に廃絶した。5月法隆寺に行った時、元禄時代に綱吉生母桂昌院による多額の寄進があり、桂昌院は法隆寺の恩人との説明をしたが、本当の恩人は桂昌院や柳沢吉保に強い影響力を持っていた隆光だということがわかった。

隆光は東大寺の大仏殿の再建にも公慶上人を助け大きな役割を果たした。まことに大和の寺社の復興に尽力した功績は特筆に値する。比して墓は自然石の粗末なもので横に碑文が立っているのが印象的であった。



最後は平城天皇陵である、平城宮の北に隣接しており、平城宮建設の時に方部が壊された。

元は前方後円墳であったという。しかし、奈良時代とはいえ古墳は古代の大王の墓として尊重されていたはずであり、51代平城天皇の墓とされているのが不思議である。江戸時代に定めた御陵をかたくなに変えようとはしない宮内庁の姿勢にも疑問が残る。平城宮跡に着く、資料館で昼食を取る予定であったが、休日の後で閉館していた。仕方なく外で昼食を取り解散となった。



川井代表から次回への反省として、真夏はエアコンのきいた涼しい資料館での研修会にすべきかなあのお話があった。皆様お疲れ様でした。

(杉本 登)

～森林体験山もり・てんこ森～

奈良県山の日・川の日普及啓発推進事業

2013年7月15日(月・祝)

(於 奈良県立野外活動センター)

(主催:奈良県農林部森林整備課)

◆参加スタッフ 男性11名 女性4名

◆出典内容

- 竹を使った自然工作 竹の水鉄砲 150名分
- かみトンボ 100名分
- ブンブンゴマ 100名分

開催前の大雨で中止かなと思う天候。しかし、参加者が少ないのかなと、思ったら、県によると763名の方がエントリー済みでした。

土砂降りの雨に迎えられ、雨に見送られてのイベントの1日でした。*今回は、グループ単位の参加が多く、一度に大勢の対応をすることになりました。

水鉄砲・紙とんぼ・ブンブンゴマも大盛況で食事もとれないほどの大盛況で、イベント終了。



お客様第1号



サアー 準備OK!

- ◇手間暇掛けて用意した水鉄砲に人気集中、手間を惜しまないで心を込めれば喜ばれる事を実感。
- ◇みんなでやれば怖くない!参加者の心合わせての作業には頭の下がる思い・イベント大好き!!
- ◇一人で作る練習をして 3つ目ぐらいで水も飛ぶ物ができ要領がつかめ、次から次と子供が並び昼食も取れない繁盛ぶりでした。
- ◇雨の中でも水鉄砲目当ての子供たちが多いことに驚かされました。
- ◇どの作品も子供達にとっては一番の出来で、得意げに遊ぶ姿を見て、私まで嬉しくなりました。
- ◇一回だけで十分とは言えませんが、一緒に子供達と遊ぶことも大事だと思いました。

ブンブンゴマ 回るかな?



吐山の怪人を退治



(田中 修)

奈良学クイズ



【問1】
写真は、十一面観音菩薩立像の部分写真です。所蔵寺院の山号を漢字と平仮名でお答えください。



【問2】
写真は、ある仏像の部分写真です。所蔵寺院と仏像の名称をお答えください。

春の収穫祭 じゃがいも祭り

6月20日(木)に予定されていたならやま恒例の「春の収穫祭」が、雨の為27日に順延となり、更に前日26日の大雨にもやきもきさせられましたが、無事開催することができました。暑過ぎず丁度良い曇り空のお天気でした。

午前中は、里山G、農園G、景観Gのメンバーが、雨で滞っていた作業へと其々の場所に出かけて行かれました。

この日の為に冬の間から、春野菜栽培の畑の畝作り、肥料のチップ入れ、そして植え付け、水やり、除草、支柱立て等の作業をこなし、意欲的な皆さんのお陰で、立派な春野菜を収穫する事が出来ました。



ベースキャンプでは、女性メンバーが「じゃがいも祭り」のメイン料理、野菜カレーの準備に取り掛かる。男性のメンバー一人が調理に参加して下さったのは嬉しい事でした。

食材は、鈴木さんからご提供頂いた白米に、ならやま産の赤米を炊いたご飯6升。

今年の男爵薯と玉葱は上々の出来栄え、生育の遅れていた人参も順延で十分に育ち、当日収穫した採れ立ての野菜は、色も艶やかで美味しそうな茄子、万願寺とうがらし、モロッコいんげん、大蒜。当会が誇る全て無農薬有機野菜、加えて外国産なれど本物の牛肉。

参加会員61人の胃袋を満たすべく、二つの大鍋に溢れんばかりに具沢山の野菜カレーの出来上がり。ダッチオーブンで焼いた男爵薯、会員さんお手作りの「玉葱のしば漬け」「らっきょう漬け」「切干大根のピクルス」「セロリ、キュウリ、キャベツのピクルス」も提供されました。



午前中の作業を終えてベースキャンプに戻って来られた会員さんは、先ずならやま産の冷たい「梅ジュース」で喉を潤し、ほくほくカレーをお皿に盛り頂きまーす。舌もお腹も心も美味しく満たされた昼食でした。ご馳走さま。

お腹ごなしに皆さん再び午後の作業に出かけて行かれ、本当にお疲れさまです。

2時半頃に作業を終え三々五々ベースキャンプに戻って来られると、おやつ?お土産?の「カレーうどん」と「おにぎり」が待っていました。お腹一杯でもう食べられない?



仕事の疲れを温かいコーヒーで癒し、ならやま大地の恵みと、会員の皆様に感謝の一日でした。

来年の収穫祭も又楽しみですね。

(山中 笙子)

新しい発見！楽しい一日！

自然観察会実施報告

※※※ 矢田丘陵自然観察会 ※※※

7月3日矢田丘陵の自然観察会を行いました。夜半来の雨が朝まで降り続きどうなるものかと気がもめる空模様で、さすがに出足は悪く合計7名の参加となりました。ただ雨のぱらつきもしばらくの時間だけで、後は傘も必要ない状態で、ゆったりと観察に打ち込むことができました。

御宮知講師の博識、実物を五感を持って観察する姿勢、近縁植物や関連する植物を比較対比して説明されるスタンス、それに加えて、ジョーク好きな優しい人柄が相まって楽しい観察指導をしていただきました。参加者一同十分満足したとても楽しい自然観察会でした。

以下参加者の振返りをまとめてみました。

1, 実にたくさんの植物を観察した。優に100種を超える植物だった。

2, 身近な植物を改めてじっくり見た。

問近につぶさに見ると、新たな発見がいっぱいあった。

3, 知らない植物の発見もいっぱいあった。

アゼオトギリの黄色い花、スミレと見違えるツボクサ(セリ科)、ウスノキの実の試食、たくさんのヌマトラノオなどいろいろな発見があった。

4, 自然遊びを交えての観察会は楽しい。

クズの葉のボン、シャシャンボの若葉を使った葉笛などを実習したが、とても楽しくみんな夢中になった。



5, 質問をいっぱいしながらの観察会は楽しい。今回はたまたま少人数だったので、講師にいっぱい質問をぶつけながらの観察会ができた。
(倉田 晃)

※※※ 帯解小学校校庭自然観察会 ※※※

7月17日帯解小学校放課後子ども教室で校庭の自然観察会を行いました。当初6月26日(水)を予定していましたが洪水警報のため中止し、この日の実施となったものです。

小規模な小学校で参加児童18名でしたが、他に放課後子ども教室運営委員10名&校長、教頭先生も参加され、当方スタッフは川口、倉田、平岡の3名でした。

大変暑い午後の時間でしたが、日陰を選んだり、帽子や水筒をしっかりと用意して、事故もなく楽しい観察



会ができました。児童はもとより運営委員会の皆さん、小学校の先生方、そして私たちスタッフみんな揃って楽しい時間を過ごすことができました。

取り上げた観察ポイントは魔法の葉っぱ(カタバミ)、ヘリコプター飛ばそう(カエデ)、不思議な散歩、これ一つの花?(シロツメグサ)、どのにおいすき?の5ポイント、後半の自然工作は葉づくりをしました。それぞれのポイントで子供たちは一緒に楽しんでくれました。また、葉づくりも大変好評で夢中になって花や葉をレイアウトし、素晴らしい作品を作っていました。殆どの子どもが2つ以上作り、中には7つも作った2年生がいました。

今回の特徴は運営委員会のみなさんにも子供たちと一緒に参加してもらったことです。「初めて体験した」「自然の不思議にびっくりした」という感想でした。また楽しい切り口で子供たちが興味を持つような展開をしてもらっており、とてもよかったので、年に何回かやってほしいとの要望がありました。

運営委員会のみなさんと学校の協力体制が良くできており、私たちもとてもやりやすく充実した思いで学校を後にしました。(倉田晃)

赤目四十八滝めぐり

7月例会
報告

日時：7月23日(火) 10:00~15:30

場所：赤目四十八滝(三重県名張市)

コース：近鉄赤目口 — 赤目溪谷往復〔日本サンショウウオセンター〜行者滝〜琵琶滝〕
— 近鉄赤目口

参加者：19名

幹事：青木、羽尻

赤目溪谷は、1700万年前の火山の爆発で出来た溶岩が流水で削られ、「柱状節理」の奇岩やたくさん滝があり、広葉樹林の木々と相まって独特の溪谷美を作り上げている。明治の中ごろまでは、靈氣溢れるパワースポットとして密教の僧侶や伊賀忍者の修業の場となっていた。

＜日本サンショウウオセンター＞…約10種60余匹のサンショウウオが飼育されている。亡くなったサンショウウオの骨格標本も展示されていた。

＜滝めぐり＞…「四十八」は「多い」を示す言葉とも言われるが、たくさんある滝の中で特に魅力があるのが「赤目五瀑」といわれている滝だ。センターから10分ほど行くと、まず「不動滝」がある。昔、修業者が赤目の牛に乗った不動明王を見たといわれ



る場所がこの滝で、それが「赤目」の地名の由来にもなっている。水の神、不動明王のガッシリとした姿を感じさせる滝だ。川の水は清らかに澄み、たくさんの魚が泳いでいる。ほとんどが、カワムツだ。ミヤマカ

ワトンボも見かけた。また、岩場にはイワタバコが可憐な花を咲かせていた。



「千手滝」を見て、その横の空海が修業をしたと伝えられる「護摩の窟」を少し行くと「布曳滝」がある。水が30メートルの高さから白い絹の布を垂らしたように真青な滝壺に流れおちてくる。滝壺の深さも30メートルあるという。

昼食は、百畳岩を過ぎた川の岩場でとる。心地いい涼風うけ、ゆったりとした時を過ごせた。午後の行程で、素晴らしかったのは、「荷担(にない)滝」だ。人が天秤で前と後ろに大きな荷物を背負ったように、2つの滝が並んでいる。河原に降りて滝を背景にして集合写真を撮った。

「五瀑」の最後は、楽器の琵琶のような形をしている「琵琶滝」だ。ここでは、大きな感動があった。野外でサンショウウオに出会えたのだ。



サンショウウオは我々が近づくと石の下に引込んでしまったが、木切れでつつくと這い出してきた、騒いでいる我々を無視するようにゆったり歩いて、滝壺の深みに消えていった。午後3時前、売店で喉を潤し、バスに乗り、3時30分に「赤目口」で解散した。

行程は急な上り下りの道だったが、滝の発するマイナスイオンでリフレッシュでき、またイワタバコのかれんな花や野外でサンショウウオを見ることができ、楽しい夏の日でした。(羽尻 嵩)

やさしい
昆虫講座

③④ サクラの樹は毛虫さんのごひいき

木村 裕

春に多発した毛虫軍団は何処かへ消えてしまい、静かになりました。来年までお休みだそうです。道端には卵を産み終えた白い蛾が転がっているのが見られます。また、太い樹の幹や壁、石垣などに直径3cm前後、淡褐色のピロード状の塊（卵）も見受けられます。

今春の「マイマイガ」の大発生は突発的なもので、虫の世界では単年度の成りあがり者に過ぎません。毎年どっと発生してサクラの樹を丸坊主にする由緒正しい大物は夏に発生する「モンクロシャチホコ」です。



8月のお盆頃から姿を見せ、一族郎党寄り集まって宴会を開きます。毛虫とはいえ毛には毒はまったくありません。

手でつまんでも問題はありますが、触れる勇気のある人はまずいないでしょう。体は赤褐色で毛はあるのですがあまり目立たず毛虫らしくありません。数十匹の虫が団子状に寄り集まって葉をぼりぼり齧りますので、枝単位に葉が消えて行きます。大きくなると長さ5cmくらいに達し、体色も黒くなり、黄色の毛が目立つようになります。こうなると食べる量も半端ではなく、樹全体の葉が食われて丸坊主になるのもごく普通です。このような樹の下には赤褐色の糞が山のように積もり、雨がふるとそれが解けて路面が赤くなります。

丸坊主になったサクラは秋になると花をつける現象がよく起こります（狂い咲き）。サクラの他、ウメ、カイドウ、ボケ、ピラカンサなども大好きですが、カシやマツの葉は美味しくないもので、間違っても食べることはありません。

サクラの樹では、マイマイガ、モンクロシャチホコばかりでなく、いろいろ多くの毛虫さん

がお食事とお宿のお世話になっています。

ならやまでは彩の森に植樹したヤマザクラで今年の春に何枚もの葉を糸で綴り合せて巣をつくり、葉が食べられる被害がかなり見られました。この巣を開くと、肌色で長さ2cm前後のイモムシ一家が住み着いていました。姿からは蛾の幼虫のようですが、これは「サクラヒラタハバチ」と呼ばれるハチの子供です。葉を食べることからハバチ（葉蜂）と呼ばれ、母親は春先に葉の組織内に卵を産み、あとは知らん顔で子供の面倒をみません。孵化した子供たちはやむを得ず兄弟たちが寄り集まって葉を糸でつづり合わせてささやかな巣をつくりあげます。幼虫は十分に生長すると、地上におりて地中で蛹になります。

ならやま里山林の谷道にあるタンナサワフタギの葉を食べるナマコ状のシロシタホタルガの幼虫をご存知の方がいるかと思いますが、その虫によく似たナマコ状の「ウスバツバメ」（黄色で黒い縦縞がある）が5月頃、サクラに大発生して葉を孔だらけにすることがあります。毎年同じ樹で発生します。

春先最も早く発生するのは、「オビカレハ」という毛虫で、新葉が開き始めた頃に発生し、みんなで力を合わせて枝の分岐部に白い糸でクモの巣状の住処をつくります。大きくなると、幹の隙間や裏側の目に付きにくい場所で5cmくらい、黄色と青色の縦縞のある毛虫となりじっと昼間は潜んでいます。最近では先月号で紹介しましたマイマイガに押され気味です。この毛虫は毒があります。

大物は季節に合わせて次々に入れ替わりますが、サクラでは小物もたくさんおります。毒毛を備えたものもありますが、みんな単独生活で人様を騒がせるほど悪質なのはいません。

麝香揚羽神のお告げを伝え来る 川崎和江

和江さんはたまに里山へやって来る。馬の鈴草に戯れる蝶に感動を受けたのだろうか。麝香揚羽が神の使者と言う。

花が女神か、蝶が男神か、自然の不思議が面白い。

円墳や放物線の南風吹く

八木順一

藤ノ木古墳の一景だろうか。見事な円丘に夏の風が滑る。夏は来ぬの心境。

傘手向け暫し蕃茄の雨宿り

八木順一

蕃茄はトマトの異名。梅雨の水分を嫌い、夏の高湿に弱い。傘を差し出す優しさ。色づいた実に、美女を見たのだろうか。

くれ泥むバツカス集ふビアテラス

鈴木ホ一

のらの会。バツカスは酒を司る神。日没と共に場はファンタジー。人生談義に花が咲く。

納涼のオーブンテラス酒自慢

池田富子

ビアガーデンの夜会、持ち込みの銘酒満載。酒談義の小トラ・大トラ。タイガース頑張れ。

自然俳句

監修 川井秀夫

「朱夏の讃」

川井秀夫

山仕事タスクフォースの朱夏の讃

真夏の山仕事は大変。男女を問わず頭が下がる思い。「タスク」は課題。「フォース」は機動部隊とも。現在ではプロジェクトチーム。

なら山産西瓜の種をぷっと吹く

農作の頭領、萱野さんの労作。黄西瓜の色は涼味。少年の頃、種を飛ばしっこして遊んだ事が過る

ビアテラス逢うひとの椅子傍らに

「のらの会」宵のビアガーデンに集う。日頃のワーカー達も紳士・淑女に変身。五臓六腑に生ビールが沁みる。明日に向けてブラボー。

森森と媛のみささぎ夏帽子

歴・文クラブ七月例会。盾列古墳群を歩く。古代の後妃が眠る。炎暑の中、見るひとの日傘が舞い、帽子が揺れる。





真夏の空は呼んでいる

谷川 萬太郎

出番を静かに待ちわびる夏空が 半べそを掻いてふてくされている
 湧いて出る我が物顔の雨雲よ あなたは東の間の影のヒロインか？
 大きくタクトを振る指揮者のように 真一暗な空に稲妻の閃光が走る
 天にも突き刺さるとどろく雷鳴は ベートーベン交響曲6番4楽章だ
 若者たちの揺れ動く心の四季は 熱い夏を迎える華やか宴なのだ



雨に濡れた舗道、暗い空を眺め これが見納めだよと 言わんばかりに
 強く烈しく感情を剥きだしにして 情け無用の雨が叩きつけるように降る
 山や河よ変わる季節の涙雨は 別れを惜しむ情けに濡れた証なのか
 咲くだけで心なごむ花たちよ 啼くだけで寂しい心がなごむ虫たちよ
 吹くだけで心がなごむ風たちよ 晴れるだけで、暗い心が消える青い空

一番星に祈ろう明日こそ 我らの夏をこの手につかもう！



「一品」

竹本 雅昭

～主人が忙しく道具を片付けてる～

妻：お帰り。今日は何買ってきたん。

夫：ナスとニンニク。

妻：うわー、艶々してきれいなナス。傷もないしGoodやんか。

ナス：えらい気に入ってもらって安心した。

ニンニク：俺かて大粒で立派やのに何も言うてくれへんのかいな。

夫：ニンニクはまだ泥がついてるから外へ干しとくわ。

妻：これとないして食べる？

夫：そやな、揚げ漬けにしようか。

～夫婦合掌 食前の言葉…～

妻：やわらかくてとても美味しいわね。

夫：ハウス栽培でもないのに、皆さんの努力の成果や。有難い有難い。

ナス：新鮮なうちに食べてもらってよかった。

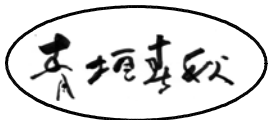
胃：いらっしゃい。とても旨かったと連絡きてますよ。これから先は我々に任せといて、各係がご主人のためにアンタの力を貸してもらいます。何も心配いらんよ。

ナス：ガッテン。

～夫婦合掌 食後の言葉…～

ニンニク：毎朝ご主人が食べてくれるようだ。俺も旨いと言わせてみせるぞ。





はくすきのえ

白村江の戦いから壬申の乱まで

藤田秀憲

660年7月18日、新羅(金春秋-武烈王)5万と唐(高宗)水陸13万の連合軍に攻め込まれ、百済(義慈王)は滅亡した。

3カ月後、百済の遺臣鬼室福信は百済再興のため、大和朝廷に援軍の派遣と人質の百済の皇子(余豊璋)の送還を要請してきた。

「百済を助けることは、新羅と戦うだけでなく強大な唐を敵に回すことになる。このまま百済を見捨てた場合、多年日本が勢力を伸ばそうとしていた朝鮮半島を全く失うことになるばかりか、百済が滅べば危険は次に日本に及ぶかもしれない。」朝議は沸騰したと思われるが、ついに百済救援に決し、駿河の国で軍船を造らせた。

12月24日、斉明天皇は難波宮に行き、みずから筑紫に向いて救援軍を派遣することを表明した。

661年(斉明7年)1月6日、68歳の斉明天皇を乗せた軍船(170艘・安曇比羅夫大將軍)は難波の海から征西の途にのぼった。中大兄、大海人両皇子および妃達もこれに同行した。



1月8日、吉備大伯海(おおくのうみ-岡山県邑久郡)。

1月14日、道後温泉に近い伊予国熟田津の石湯行宮(いはゆのかりみや)に泊まり、長期滞在。

この時の額田王の歌に <熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今は漕ぎ出でな(万1-8)>がある。

3月25日、那大津(福岡県博多)に到着。磐瀬行宮(いわせのかりみや)(福岡市南区三宅)に入る。

5月9日、朝倉宮(福岡県朝倉郡朝倉町-博多湾から約40Km内陸部)に入る。

7月24日、斉明天皇(68歳)急死。中大兄皇子は皇太子として喪に服しながら、称制して、長津宮で戦

の指揮をとり、9月、豊璋に倭国最高位の「職冠」を授け、5千人の兵をつけ、福信のもとへ送った。

662年、百済に帰国した豊璋は百済王となり、福信と協力して戦いを有利に進めた。しかしだんだん二人の間が不和になって、豊璋は謀反の罪で福信を殺害した。

663年3月、中大兄皇子は百済に2万7千人の兵を3軍編成で送り、<前將軍 上毛野君稚子(かみつけのきみわかこ)、中將軍 巨勢神前臣訳語(こせのかんざきのおみおさ)、後將軍 阿部引田臣比羅夫(あべのひきたのおみひらふ)> 援軍は博多湾から壱岐、対馬を超え朝鮮半島へ向かった。

663年8月、唐・新羅軍が百済復興軍の周留(する)城を包囲し、唐軍は軍船170艘を白村江(錦江~クムガン河口)に配備した。

倭国軍が朝鮮半島西岸に到着。百済王豊璋と倭国軍は、「我ら先を争わば、彼自ずからにに退くべし」と突撃作戦に出た。

8月28日、白村江で唐軍と百済・倭国軍が激突。倭国軍は唐の水軍によって挟み撃ちにされ、軍船400艘が燃え上がり大敗した。百済王豊璋は高句麗へ逃亡し、9月7日、百済が陥落し永久に滅亡した。

唐・新羅連合軍に大敗した倭国軍は、亡命を希望する百済人を伴って帰国。唐・新羅軍の侵攻に備え、対馬、壱岐、筑紫の国に防人と烽火台を置き、大宰府に水城(みずき)を築き、瀬戸内海を主とする西日本各地に古代山城などの防衛砦を築いた。さらに667年に天智天皇は大津宮(大津市錦織町)に遷都、翌年即位し、律令の編纂と中央集権体制の整備を目指した。

天智天皇が崩御すると、672年に古代最大の内戦「壬申の乱」が勃発し、これに勝利した大海人皇子は、飛鳥浄御原宮で即位し(天武天皇)、専制的な統治体制を構築してゆき、新たな国家建設を進めた。

<朝鮮半島周辺のその後>

唐・新羅は668年に高句麗を滅ぼした後、一時対立するが、唐の冊封を受けた新羅によって、676年朝鮮半島が統一された。また698年、朝鮮半島東北部に高句麗の遺民、大祚榮によって渤海が建国された。

Gallery

ならやま

クラフト作品

(田中克彦)

- ① お酒を飲むタヌキ
- ② 筏流し
- ③ 恐竜
- ④ 坊ちゃん列車



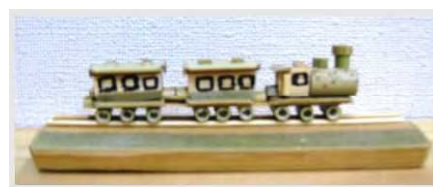
① お酒を飲むタヌキ



② 筏流し



③ 恐竜



④ 坊ちゃん列車

デッサン (有元康人) 「ビーナス」

書 (中井弘) 「漢詩二首」

張九齡「照鏡見白髮」

宿昔青雲志 蹉跎白髮年

誰知明鏡裏 形影自相憐

杜牧「江南の春」

千里鶯啼綠映紅 水村山郭酒旗風

南朝四百八十寺 多少樓臺煙雨中

前首は張九齡の詩で「昔青雲の大志を抱いていたが、空しく時を過ごして白髪の年になってしまった。鏡に映った姿と相憐れもうとは、誰が知ろうか。」と今の我が身と重ねてしまいました。後首は杜牧の有名な「江南の春」で江南地方の自然とかつて栄華を極めた都（現在の南京）を想起して詠っています。





蕎麦の味 ⑤

田辺 保

私が蕎麦打ちを始めてから六年目ですが蕎麦の歴史を教えていただいたのは、蕎麦打ちの先生からで、その後色々な文献で勉強したことを少しだけここに記します。

蕎麦は、縄文時代から栽培されていたようですが、今の蕎麦切りとして食べ始めたのは江戸時代の少し前のようです。当時の蕎麦は「蒸し蕎麦切り」でその作り方は蕎麦切りを茹でて、ぬるま湯で洗って熱いまま味噌味で頂いていたそうです。今の食べ方になったのは三百年前ほど前で、又小麦粉をつなぎにして食したのは元禄年間の終わりの頃のようです。それまでは十割蕎麦で食べていたようで、煮崩れしやすかったので蒸し蕎麦切りで食べていたようです。

それ以前はそばがきを鍋に入れ「つみれ」「すいとん」などで、又、おやき・そば饅頭などで食していたようです。平穏な江戸時代に、屋台蕎麦が流行って今に続いています。

「二八蕎麦」は、今はつなぎ粉の小麦粉と蕎麦粉の割合に由来するという説と代金十六文からきた「二ハチ16」という洒落だという説の二つがあります。代金が十六文を越えたあたりからつなぎの割合説が出てきたようです。

関東は蕎麦、関西はうどん文化ですが、落語で有名な「時そば」は、上方落語の「時うどん」をそばに直した噺だそうです。

大晦日に年越蕎麦を食べるという習慣は江戸時代から定着したとされます。蕎麦は長く伸ばして細く切って食べる食べ物なので、「細く長く」ということから「健康長寿」「家運長命」などの縁起をかついで食べるようになったという説が一般的で、他の麺類より切れやすいことから「今年一年の災厄を断ち切る」という説もあります。

これからも美味しい蕎麦を仲間と楽しく打っていきたいと思っています。

健康余話

園芸で五感を刺激しよう!

中西 建夫

鳥取大学医学部浦上医学博士が次のようなことを説かれています。

65才以上の10人に1人と言われる認知症。高齢になるにつれ誰もがかかる可能性のある病気ですが、生活習慣などの改善が、予防につながる事が分かってきました。

認知症になりやすい人は日常生活に変化が乏しく、頭と体を活発に動かしていないと思われる。そこで、趣味や娯楽を楽しむ機会を増やし、脳に適度な刺激を与え続けることが認知症予防につながります。

なかでも園芸は効果的な要素が多いと言えます。たとえば、野外で自然に触れる心地よさを五感で感じられること。種や苗木から育てることで植物への愛着がわき、花を眺めたり、野菜や果物を収穫する喜びも味わえます。こうした心地よい感覚を得ることが、認知症予防には大切とあります。

また、植物の世話を続けることで日時の経過を意識したり、手指を動かすことも、脳を刺激します。さらに、生け花やスケッチなど創造的な活動につながりやすいことも魅力です。こうした効果から、園芸は認知症の非薬物療法の一つとして取り入れられ、実際に多くの人の認知機能が回復したという報告もあります。

野外で過ごしやすい秋口の季節になったら、育てやすい品種で始めてみてはいかがでしょうか。ただし、興味のない人に、「予防になるから」と強制してはいけません。認知症予防は、自分の好きなことを気持ちよく続けることが大前提ですとあります。

爽やかで緑豊かな「ならやま」は、絶好の癒しの空間です。まだお越しになっておられない方、一度足をお運びください。

幕末の石工・丹波の佐吉 辻本正則

大和路を巡ると沢山の石造美術と出会えます。石仏も木像と同じく鎌倉時代に最高水準に達し、江戸以降には観るべきものがないとよく言われます。宇陀のお茶目庚申に代表される庚申塔や国東半島の石造仁王像等の石仏巡りもしました。

30余年前、南都仏師太田古朴氏の案内で宇陀のお寺を辿った折、郷土史家の大門さんに平井大師山の八十八カ所石仏群の説明を受け、初めて佐吉の作と出会いました。大師山の山上に「総供養塔」として四十五番岩谷山の大きく精巧に彫られた不動明王。五寸三分の狂気と言われる程精緻に彫り込まれた地蔵を扉の開かない石祠に封じ込めた十九番の立江寺。この本尊を観るには十六個の穴の一つから覗かなくてはならないようになっています。

その数年後、金森さんの著書が出版され、狛犬もあることを知り、気をつけて観ていると、久米御県神社の狛犬を新発見（地元の人は毎日見ているが）。暫く佐吉の狛犬に注目し、資料や写真等を集めたこともありました。

大和の狛犬は地元の石工によるものもありますが、多くは大坂三郷の石工の作で、素朴でユーモラスなものが多いなか、佐吉「…佐吉大坂にあった頃、石をもって尺八を作ろうと同業者間で互いに競い、何れも成功しなかったが、独り佐吉は遂に之を製作し、その音実に微妙を極めた。依って公卿某の手を経て、孝明天皇に之を献じたところ、天皇いたく之を賞せられて、日本一なりとの賞賛を給った。…」(新井村史より)。作に写実的で躍動的な狛犬が国中や宇陀で何点か観ることができます。

大和の国中で、車を走らせていて、鎮守の森が見えたなら一度狛犬を覗いて観てください。江戸時代の石造物も“侮るなかれ”一見の価値あります。



(写真) 杵築神社(奈良県磯城郡川西町 伴堂) 安政6(1859)年銘 作師照信 花押(吽) 大坂住石工佐吉(吽)

(参) 丹波の佐吉の銘 佐吉・照信

・大本佐吉照信・村上佐吉・村上源照信
「旅の石工…丹波佐吉の生涯」金森敦子著
(法政大学出版局)

仲間入りしました⑦

よろしくお願ひします 境野 誠

寒さにはホント弱い。しかしながらブナ林にも冬場に足を踏み入れたい。暑さにも弱い。2年前には夏場に自転車に乗りすぎて、半月も病に伏した。かなり神経質で、枕が変われば眠れない。それでも旅への憧れは大きい。単独行動は性に合っているが、臆病で独りしていると恐ろしい。そんな情けない私ですが、よろしくお願ひします。

ならやま景観整備

活 動 予 定 日

8月	1 (木)	8 (木)	22 (木)	
	29 (木)	*15日休み		
9月	5 (木)	12 (木)	19 (木)	
	26 (木)			

- ◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に
広がる里山林地]
- ◆ 集 合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午前12時



8月1日

- <里山Gr>カシナガ被害調査、ナラガレ対策の実施
第5地区、通路整備および竹林周辺整備
- <農園Gr>サツマイモの除草・蔓返し、畑の除草
※ナス更新剪定（ナスクラブ）
大根畑の畝作りなどの準備
- <景観Gr>BC、彩の道草刈り
佐保自然の森みずやり、 駐車場草刈り
ハヤト瓜棚、コスモス播種 草取り（山野草園）
水質調査、ならやま池生物調査

8月8日

- <里山Gr>カシナガ被害調査、ナラガレ対策の実施
第5地区、通路整備および竹林周辺整備
「山と森林の月間」協賛イベント準備
- <農園Gr>桜島大根のたねまき、畑の除草
※蕎麦畑 準備（蕎麦クラブ）
- <景観Gr> BCキャンプ周辺草刈り
佐保自然の森みずやり
ならやま入口付近草刈り
草取り（日陰植物）、佐保施肥
蛍袋刈り取り、施肥
池の整備

アクセス

- ① JR平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分
 - ② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場
8：27発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場
8：38発JR奈良駅行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」
で下車 徒歩7分



- ◆ 携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）
- ◆ 昼食時に冷たい飲み物を用意しますので、コップをご持参ください。
- ◆ 連絡先：木村 裕

8月22日

- <里山Gr>カシナガ被害調査、ナラガレ対策の実施
第5地区、通路整備および竹林周辺整備
「山と森林の月間」協賛イベント準備
- <農園Gr>水田・畑の除草
水田穂肥の散布
- <景観Gr>ならやま入口付近草刈り
佐保自然の森みずやり、
第5地区草刈り
夏花施肥、草取り
池の整備、ならやま池生物調査

8月29日

- <里山Gr>カシナガ被害調査、ナラガレ対策の実施
第5地区、通路整備および竹林周辺整備
- <農園Gr>玉ねぎ種まき床の準備
※蕎麦種まき（蕎麦クラブ）
- <景観Gr> 佐保自然の森みずやり
BC、彩の道草刈り
アヤマ刈り取り、山野草園手入れ、草取り
池の整備



行事案内

9月例会予告

馬見丘陵公園の植物観察と散策

馬見丘陵東部に位置する馬見丘陵公園は昭和40年代の大規模宅地開発から自然や古墳群を保全するため、昭和59年に「歴史と自然に囲まれた憩いの空間」をめざして都市公園として計画され、平成24年に全面開園された65,3haにおよぶ広大な公園です。

今回はここをフィールドとして活動されている田代 貢さんの案内でじっくり観察をすることになりました。たくさんの皆さんの参加を期待しています。

- 1、日時：9月9日(月) 10時～15時
 - 2、集合：馬見丘陵公園公園館前 10時
 - 3、アクセス 近鉄大阪線 五位堂駅より奈良交通バス(16分270円) 無料駐車場あり
 - 4、担当 自然教室チーム(倉田、高本)
- 詳細は9月号でお知らせします。

歴史文化クラブ9月研修会のお知らせ

「壬申の乱の跡をめぐる」

壬申の乱(672年)は、天智天皇の子大友皇子と叔父である大海人皇子との間の骨肉相食む争いでしたが、結果として、天皇を中心とする強力な中央集権体制が確立され、日本は律令国家の成立を果します。今回は、壬申の乱の決戦場となった関ヶ原を訪ねることとします。現地では、「関ヶ原史蹟ガイド」の案内で、不破関資料館、不破関跡、弘文天皇陵候補地・自害峯などのゆかりの場所を踏査します。

また車中では、この歴史的な大事件の国際的、歴史的背景や、関係する人間模様や秘話にふれながら、幾つかの歴史の謎解きも試みる予定です。今回は、マイクロバスを利用しますので募集人数は28名です。歴史文化クラブの会員で参加を希望される方は8月20日までに、メールあるいはFAXで事務局まで申込んでください。

10月例会予告

一泊研修旅行「越前への旅」

今年の一泊研修旅行は、「越前への旅」です。池田町町おこし事業視察を中心に、変化に富んだ沢山の企画を盛り込んだお値打ちの一泊研修旅行です。どなたにも満足していただきたいと思います。9月から参加募集を始めますので、ご予約ください。多くの方のご参加をお待ちしています。

実施日：10月28日(月)～29日(火)

利用交通：50名乗り貸切大型バス

予定会費：22,000円

28日

- ① 特別史跡「一乗谷朝倉氏遺跡」観光(昼食)
- 町おこし事業ファームハウス・コムニタ視察
- 溪流温泉「冠荘」(宿泊)

29日

- ① 白山「平泉寺」観光
 - 福井県立「恐竜博物館」見学
 - 「越前竹人形の里」(昼食)
 - 「中池見湿地」自然観察
- 幹事：阿部、八木、奥野、寺田



- 1、日時：9月25日(水) 8時集合

- 2、集合：高の原駅バスターミナル西

- 3、帰着：高の原駅 5時予定

- 4、参加費：3,000円

(期限前でも満員になり次第締め切ります)

歴史文化クラブ事務局

古川 祐司

自然教室チームだより

ならやま昆虫観察会に行こう!!

自然教室チームでは奈良・人と自然の会の誇る「昆虫博士」お二人（木村さん 菊川さん）のご指導で「ならやま昆虫観察会」を開催いたします。

植物や野鳥観察の機会はそれなりにありますが、昆虫などの虫を観察できる機会はそれほどありません。しかもカシノナガキクイムシなど名前は聞くが見たことはない虫やトラップにかかっているさまざまな虫を見ることができるかもしれません。

その昔の子ども時代に戻って、捕虫網を振りかざしいっぱい虫の採集をしてみましょう。どんな獲物が採れるかは皆さんの腕次第です。

奈良人と自然の会の皆様の参加大歓迎です。奮ってご参加ください。

◎日時：2013年8月7日（水）9時～11時

* 虫の世界でも熱中症は鬼門ですので、朝の涼しい時間帯、2時間程度にします。

* ただし、状況によっては昼頃まで延びます。

* 当日は質問なんでも大歓迎

◎場所：ならやまベースキャンプ

◎持ち物：水筒、虫よけスプレー、スパッツ（あれば…です。草むらに入るときに有効）、フィルムケースか小さなガラス製クスリびん（小昆虫を入れるためです。）

* なお、網や虫かごはならやまにいくつかありますので不要

* 昼食を食べて帰られる方はご用意ください。

◎観察内容：

* 虫の採集と同定

* クヌギの樹液に集まる虫

* コナラに貼り付けた粘着トラップに集まるヤジウマの虫たち * 落とし穴トラップに落ちたドジな虫 * 池のアメンボ・マツモムシ等



ツバメの罫（ねぐら）入りを見よう!!

もう多くのおみなさんは平城宮跡のツバメの罫入りを見たことがあると思います。ただ、まだ見たことがないといわれる方もおられると思いますので、紹介をさせていただきます。これは真夏の夜に平城宮跡で行われる一大自然ショウと言えます。



春から夏にかけて子供を育てた親ツバメたち、そして育てた子ツバメたちは南を目指して旅立つ前の期間をたくさん仲間と集団で過ごします。集団が過ごす場所はいくつかありますが、奈良では平城宮跡が有名です。その集団は夜になるとヨシ原に集まって休み、朝になるとその日の糧を求めて各地に散らばっていきます。旅立つ日までそれを繰り返すわけです。夜にヨシ原に集まる様子をツバメの罫入りと称し、朝出かけていく様子をツバメの罫立ちというわけです。

何千・何万羽にもなるツバメが夕方になるとどこからともなく現われ、大空を乱舞しそのうちにいつともなくヨシ原に降りて眠りにつきます。その自然のしくみの不思議さ荘厳さは見る者に感動と畏敬の念を与えます。

私は初めてツバメの罫入りを見たのは8年前のことです。シニア自然大学の仲間たちが奈良で面白いものがあるらしいから見に行こうと誘ってくれたのが始まりでした。それまで全然知らなかったのが本当にびっくりし感動しました。それ以来毎年1回は出かけています。そもそもツバメについて殆ど何も知らず、子育てを終えたツバメたちは適当な時期にファミリーごとに南に行くのだろうぐらいに思っていたのですが、全然違うようです。

場所は大極殿の西側が良く、期間は8月いっぱい、時間は6時半から7時過ぎぐらいです。まだ見ておられない方は是非一度見に行かれてください。
(倉田 晃)

平成25年・7月度幹事会報告

- ◆日時：平成25年7月2日(火)
17:15~18:50
- ◆場所：奈良市中部公民館
- ◆出席者：幹事17名 顧問2名
- ◆案件：
 - ①会員動向、会計報告 (会員は146名)
 - ②自然教室、ならやま等の活動報告
 - ③7月15日奈良県イベント出展について
 - ④7月27日奈良県協賛イベントについて
 - ⑤8月24日奈良県協賛イベントについて
 - ⑥ナラ枯れ対策について
 - ⑦7~9月の行事予定の確認、その他

ペン画によせて 境 寛

茅葺きの家

最近茅葺の家を見ることが大変少なくなりました。奈良県内でも大変貴重なもので、大和郡山の県立民俗博物館に移築され展示されていますが、この絵は、一昔前に吉野での写真からおこしたものです。

奈良学クイズ・続

- ◆ 奈良学クイズ7月号の正解は、狩野山楽、長岳寺 でした。
- ※ 問題の難易度を上げた積もりでしたが、ヒントがやさしかったようでした。
- ※ 正解者は7名でした。(景品は8月に)

◆ 奈良学クイズ8月号・応募要領

① メール又はFAX



② 締切日：8月3日(土) 必着

申し合わせ 事項

ならやま環境整備活動や野外行事は、前日午後7時前のNHK TV天気予報で降水確率が午前60%以上の場合は中止になります!!



メキシコでは、トウモロコシの消費量が多い。一例はトルティーヤで、トウモロコシを粉にして薄く円盤状に伸ばして焼き、食材を包んで食べる。料理法はさておき、栽培のための工夫が、先祖代々受け継がれている。それは、苗床の土に、川床に堆積した富栄養化土壌を掬い上げて活用する極めて簡便な方法である。しかし、その作業が川の環境保全に役立っていると言う。有機栽培による苗の初期生育にも良い効果が得られている。ならやまでも一度試してみたいと思っている。

水月湖(福井県)の湖底堆積物・年縞(ねんこう)から、地球の気候変動を探る研究調査が進められている。今後の情報が楽しみです。

暑さ厳しき折、ご自愛専一に。(里山人)

会報誌[ネイチャーなら]・第139号

発行：奈良・人と自然の会
会長 藤田秀憲

<http://www.naranature.com>



9月号の印刷・発送予定について

日時：平成25年8月28日(水) am 9:00~

於：奈良市ボランティアセンター



編集チーム・代表 鈴木 未一